

東日本大震災で被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。

この度の東北・関東大地震，大津波および福島原子力発電所事故により，甚大な災害を被られた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

大震災の犠牲になられた多くの方々に心より哀悼の意を表すると共に御遺族の皆様に心よりお悔やみ申し上げます。

一日も早く行方不明の方々の安否がわかります様お祈り申し上げます。

被災された皆様はじめ，救援，復興，原発事故にたずさわる皆様も健康に留意され，この未曾有の苦難から立ち上がることを心から願っております。

原発の安全と被害にあった国土の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

日本体力医学会

理事長 吉岡 利忠

メッセージ

エコノミークラス症候群の予防対策と水分補給について

長い時間飛行機に乗って同じ姿勢で椅子に座り続けた時にエコノミークラス症候群が生じます。被災地で心配なのは車の中で寝起きする人がこの症候群に陥ることです。同じ姿勢で座り続けていると，大腿部（ふともも）の重さで体の内部にある静脈が押し付けられます。この状態になると，静脈の流れが滞るようになってしまいます。流れが滞った時に血管の壁に血栓という血液の塊が出来てしまいます。そこについているだけなら大きな問題にならないのですが，立ち上がって歩いたとたんに血液の塊が血管の壁から離れて静脈の流れに乗って移動します。この塊が肺動脈の毛細血管に行き着いた時，毛細血管が詰まってしまいます。このことが急性肺動脈血栓塞栓症を引き起こします。血液の塊が脳の血管を詰まらせれば，脳血栓に，心臓で詰まってしまうと，急性心筋梗塞になります。実際に，2004年10月23日に発生した新潟中越地震の後，3日以上車中で避難生活をしてきた被災者が急性肺動脈血栓塞栓症で亡くなりました。被災地における避難生活において，いわゆるエコノミークラス症候群が発生する可能性があります。これまでの本学会などの知見から，その予防対策として体を動かすことをお勧めします。ストレッチをしたり，簡単な体操など手足を動かすだけでも予防対策になります。

次のような人達は特に気をつけて下さい。下肢静脈瘤のある人達、下肢の手術を受けたことのある人達、肥満の人達、高齢者の人達、喫煙者の人達、糖尿病・高血圧症など生活習慣病の人達などです。

同じ姿勢をしなければ、エコノミークラス症候群が予防出来るわけではありません。どうしても水分が不足するとエコノミークラス症候群に陥りやすいことが分かっています。汗をかかなくても水分不足（脱水）になります。私達は体温を一定に保つ為に熱を作ったり（シバリング）、熱を皮膚から放出（不感蒸泄）したりしています。この時に、水を使っているのです。意識にのぼらない、感じない汗が出ます。じっとしているだけでも水分がなくなってしまう。これらの水は、血液の水分（血漿）から出ています。このことによって血液が濃くなってしまいます。水分不足は、血栓が出来やすい状態です。

私達の体の60%は水分です。1日の必要量は成人で約2.5ℓぐらいです。飲料として1.2ℓ、食物として1.0ℓ、代謝水として0.3ℓ、合計2.5ℓが通常の生活の目安です。1日の水分損出量もおよそ2.5ℓです。尿（おしっこ）で1.5ℓ、糞便（ウンコ）で0.1ℓ、不感蒸泄で0.9ℓです。この状態がバランスよく保たれていればエコノミークラス症候群のリスクも低下します。

特に注意が必要な人達は、次のような人達です。発熱している場合、下痢・嘔吐の場合、被災地で一日中作業している人達などは要注意です。熱中症ではないのですが、脱水になります。十分な水分、できればスポーツ飲料水などミネラルの含んだ水をとるようにして下さい。また、高齢者、乳幼児など環境変化への適応に素早く対応出来にくい人達も脱水の危険性があります。このような人達については周りの人達が注意を持って接してあげて下さい（乳幼児には飲料水をあげることをお勧めしますが、もしもスポーツ飲料水などをあげる場合は、事前に医師等にご相談ください）。

第66回日本体力医学会大会のご案内（第3報）

3月11日に我が国観測史上最大のマグニチュード 9.0 を記録した東北地方太平洋沖地震が発生しました。この災害で亡くなられた方々のご冥福をお祈り致しますとともに、被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

第66回日本体力医学会大会は現在のところ、開催する方向で準備を進めております。今後、大会に関する情報（開催の有無を含めた）、一般研究発表の演題登録および事前登録、すべて大会ホームページ上で行います。また、プログラム等の内容についてもホームページ上で行いますので、ご覧ください。

記

1. 会 期：平成23年9月16日(金)、17日(土)、18日(日)
2. 会 場：海峡メッセ下関、下関生涯学習プラザ（下関市）
3. 大会長：江橋 博（東亜大学 教授）

第66回山口大会ホームページ：<http://www.tairyoku66.jp>

重要なお知らせ

1. 演題応募期間の延長

一般研究発表応募期間：平成23年4月11日(月)～平成23年6月2日(木)正午まで

公募プログラム応募締め切り日：平成23年5月7日(土)

※大会実行委員会では、今回の震災の影響を考慮し、一般研究発表、公募プログラムの応募締め切り日をそれぞれ **1週間**延長いたします。多くの演題応募を心よりお待ちしております。

2. 一般研究発表について

一般研究発表は、口頭発表とポスター発表の2種類です。第2報でもお知らせしたように本大会は、一般研究発表において、発表形式の選択はできませんのでご注意ください。なお、発表者としての一般研究発表への登録は、**会員1名につき1演題に限ります。また、発表者は原則、筆頭演者として下さい。**演題の採否、発表日時は7月上旬に電子メールならびに大会HPにてお知らせします。なお、発表日時等のご希望および変更については一切応じられませんので、ご了承ください。

3. 参加登録

大会に参加するには参加登録が必要です。参加登録の方法は、事前登録および当日登録があります。事前登録は大会ホームページ上で、当日登録は大会会場受付で行います。

なお、事前登録の方にのみ、大会開催前に予稿集、ポケットプログラム、参加証をお送りいたします。

1) 大会参加費

学会会員	事前登録	一般	10,000円	学生	5,000円
	当日登録	一般	12,000円	学生	7,000円
非会員		一般	12,000円	学生	7,000円

※非会員の参加登録は当日登録のみとさせていただきます。

2) 事前登録期間

平成23年4月11日(月)～7月31日(日) 正午まで

3) 事前登録と支払い方法

事前登録はホームページ上で受け付けます。大会ホームページの参加登録のバナーから、案内に従い、登録を行って下さい。大会参加費は、オンラインでの参加登録システムにおいて、(1)クレジットカード、(2)銀行振り込み、のどちらかの方法でお支払い下さい。

※ゆうちょ銀行の払込取扱票からの振り込みはできません。

※振り込み手数料は参加者のご負担にてお願いいたします。

新しいお知らせ

1) 託児所について

学会期間中、大会会場にて託児所をご用意いたします。託児所の利用を希望される方は、事前に登録が必要となります。事前登録の会員で託児所を利用される予定の会員は事前登録時に登録することができます。詳しくは大会HPをご覧ください。

2) エクスカーションについて

大会最終日(9月18日)の午後からと9月19日(月・祝日)の午前中に下関・門司の観光名所を回るエクスカーションをご用意いたしました。行程、費用については大会HPをご覧ください。

平成23年度日本体力医学会プロジェクト研究公募について

日本体力医学会プロジェクト研究（以下、プロジェクト研究）は、平成9（1997）年度に発足しました。日本学術会議体力科学研究連絡委員会から「日本人のための健康体力指標の標準化、及び健康増進・疾病予防のための身体活動に関する推奨・指針作成への提言」が出されたことを受けて、平成16年度からこの提言に関わるプロジェクト研究を公募して参りましたが、平成23年度の公募研究テーマが下記のごとくに決定しましたので、奮って応募いただくようご案内致します。

プロジェクト研究の全体像

- プロジェクト研究は、日本人の健康維持・増進に関連した体力及び身体活動・運動を主題とした研究であり、その成果として、社会に対して、勧告、指針などの提言がまとめられるものでなければならない。
- 平成23年度は下記のいずれかの研究テーマに関わる研究課題に限定する。
 - 特定保健指導（メタボ対策）に関する基礎的研究
 - こどもの生活習慣と健康づくりに関する研究
 - スポーツ科学（体力科学・体力医学）に関する研究
- 多施設が共同研究を行うことにより初めて成果が出るような研究プロジェクトであること。その際に各研究者の役割を明確にすることが必要である。
- プロジェクト研究の選考は学術委員会の下部組織であるプロジェクト研究委員会が行う。
- プロジェクト研究の申請は、研究代表者（評議員）と数名の発起人が、研究計画書を作成してプロジェクト研究委員会に提出する。
- プロジェクト研究委員会では提出された研究計画書を審査して、採択する研究を決定する。なお、本年度の新規採用可能件数は1～2件である。
- 採択された研究の代表者は研究計画を体力科学に掲載して、研究協力者を募集することも可能である。その場合には、研究協力者の採択は研究者と発起人に一任する。また、プロジェクト研究委員会が必要と認める場合には、他の研究者を指名して加えることもできる。
- プロジェクト研究委員会は研究計画に基づき研究費を配分する。研究費は主に調査や資料の収集などに当てるものとする。年間およそ100万円程度を限度

として配分する。プロジェクト研究の研究成果は3年以内でまとめ、(1)プロジェクト研究委員会の審査を経て、理事会の承認を得て、(2)「体力科学」および日本体力医学会大会において公表する。（注：学会の公式見解とするかどうかは、理事会で審議する）

プロジェクト研究に応募される方は、研究代表者（評議員に限る）と数名の発起人が、以下の項目に沿って研究計画書をA4版にワードプロセッサで書き、平成23年4月30日までに下記の提出先にお送りください（電子メールによる提出も可）。研究計画の採否は追って、研究代表者に通知します。

研究計画書

- 研究代表者名（署名捺印してください）、所属部署・所属大学など、住所、卒業大学と年月日、学位の有無、連絡先の住所、電話、ファックス、電子メールアドレス
- 研究発起人名、所属部署・大学、卒業大学と年月日
- 研究課題
- 研究目的（200字以内）
- 研究期間（3年以内）
- 研究計画（200字以内）
- 研究方法（400字以内）
- 期待される研究成果（200字以内で具体的に、例、ガイドライン）
- 研究費の用途（会合費、通信費、印刷代などの費目）に分けて概算を出してください
- この研究に関するこれまでの成果（原著、著書などの研究業績）を番号をふって書いてください

提出先

大野 誠

日本体力医学会プロジェクト研究委員会委員長

〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1

日本体育大学大学院 健康科学・スポーツ医科学系

TEL：03-5706-0814

FAX：03-5706-0814

E-mail：m_ohno@nittai.ac.jp

第22回日本体力医学会スポーツ医学研修会のご案内

本研修会は、基礎コースと応用コースに分かれ、それぞれ2日間、講義と実習を行います。救急救命法、健常者や生活習慣病罹患者に対する運動処方、筋力トレーニングおよびテーピングなど実習を主体とした研修会です。メタボリックシンドローム危険因子保持者などを対象とした運動指導等であり、アスリート対象ではありませんのでご注意ください。

尚、平成23年度より新たな講師陣を加え、1)喫煙や環境汚染および加齢による慢性閉塞性呼吸器疾患(COPD)の運動による改善効果の機序や運動処方、2)降圧剤など薬物治療受診者の運動指導の適否、配慮すべき事項など、3)機能性食品と運動療法併用によるメタボリックシンドローム危険因子改善効果など、4)体組成とくに内臓脂肪の意義およびその測定実習、などの内容を加えました。

全てのコースを受講して修了試験に合格し、所定の手続きをとると日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号を受けることができます。称号取得を希望される方は、日本体力医学会に入会し、会員になっていただく必要があります。

この研修会には日本体力医学会の会員でない方も参加できます。また、他の研修会を受講し資格や称号を取得された方で、それらの更新に必要な認定単位取得のために本研修会を受講されても結構です。受講証明書を発行いたします。

多数の方のご参加をお待ちしております。尚、実習を行う関係上、各年度の募集人数に制限がありますことをご了解ください。

平成22年12月3日

日本体力医学会学術委員会・スポーツ医学研修会実行委員会

鈴木政登 碓井外幸 太田 真 中島幸則

1. 会場

会場は東京慈恵会医科大学西新橋校各会議室・大学1号館6F機能系実習室などです。

2. 日時および研修カリキュラム

(I) 基礎コース

運動生理学やスポーツ医学等の基礎的事項については既に習得されていることを前程にさらに進んだ生理学(神経・筋, 呼吸, 循環, 代謝など)や生化学, 栄養学および運動処方の基礎などを中心に学びます。ここで学んだことを基盤として、(II) 応用コースへと進みます。

平成23年

7月1日(金)

9:00~10:30	運動と神経・筋
10:40~12:10	運動と呼吸
12:10~13:10	昼休み
13:10~14:40	運動と代謝(水・電解質およびエネルギー代謝)
14:50~16:20	運動と栄養
16:30~18:00	運動と循環
18:00~	懇親会(会費3000円, 参加自由)

7月2日(土)

9:00~10:30	運動処方の基礎
10:40~12:10	生活習慣病の運動処方(肥満・糖尿病・高脂血症)
12:10~13:10	昼休み
13:10~17:00	救急救命実習(人体模型を用いた実習)

(II) 応用コース

このコースの講義では、有疾患者または薬物治療中の場合の運動適用の可否や運動指導の実際について学びます。実習では、自転車エルゴメータによる運動負荷試験を行い、それと関連した血液・尿検査結果を参考に運動処方を作成します。さらに、高齢者や喫煙習慣保持者の健康を脅かす慢性閉塞性呼吸器疾患を反映する呼吸機能検査、糖尿病性腎症等の腎機能異常の有無を知る尿検査、およびメタボリックシンドローム罹患の上流因子として重要な内臓脂肪蓄積状態を知る体脂肪測定などを実習します。その他に、テーピングや筋力トレーニング実習なども行われます。

8月5日(金)

9：00～10：30 高血圧症およびその他の循環器疾患の運動処方
 10：40～12：10 運動器疾患の運動処方
 12：10～13：10 昼休み
 13：10～17：00 運動処方実習（自転車エルゴメータを用いた運動負荷試験，心電図記録，呼吸機能検査，尿検査，体組成測定実習）

8月6日(土)

9：00～12：00 運動処方の作成（前日の運動負荷試験で得られたデータを基に各被検者の運動処方を作成し，実施させる）
 12：00～13：00 昼休み
 13：00～17：00 テーピングおよび筋力トレーニング実習

8月7日(日)

10：00～12：00 修了試験

注意：講師の都合で講義時間割りが前後することがありますので，ご了承下さい。

3. 修了試験と称号について

基礎コースおよび応用コースの両コースを受講した方は，所定の修了試験を受験することができます。修了試験の合格者には合格証を発行いたします。また，修了試験合格後，所定の手続きを経て，日本体力医学会健康科学アドバイザーの称号を取得することができます。

修了試験は平成23年8月7日(日)10：00～12：00に東京慈恵会医科大学で行います。

4. テキスト

担当講師が用意した講義資料を簡略なテキスト化し，それに準じて講義が行われます。

5. 受講料

受講料は（I）基礎コース，（II）応用コースおよび修了試験の全てを受講する場合は50,000円，単科コース（基礎コース，応用コースの各コースを単独受講）を受講する場合はそれぞれ25,000円（2日間コース）です。2コースの受講を原則としますが，定員に余裕があれば単科コースの受講も可能です。その年度に受講しなかったコースを次年度以降に受講すれば，全コース受講後修了試験を受験することができます。尚，学生受講者は30,000円（基礎・応用コース）と致します。ただし，学生証の呈示が必要です。

6. 受講資格と定員

スポーツ医学研修会受講資格は特に定めませんが，2コース受講後に行われる修了試験に合格し，日本体力医学会“健康科学アドバイザー”の称号取得申請を希望する方は日本体力医学会会員でなければ

なりません。但し、自己研鑽のために本研修会を受講される方や他団体の資格や称号の登録更新のための認定単位取得が目的の場合は日本体力医学会会員になる必要はありません。
定員は各コース40名です。

7. その他

健康運動指導士、実践指導者の登録更新に必要な履修単位90分1単位（講義題目8科目認定）およびTHPではそれぞれ基礎コース5単位、応用コース5単位が認定されます。

8. 申し込み方法

本研修会受講希望者は、葉書またはFAXで、日本体力医学会スポーツ医学研修会を受講したい旨を下記までご連絡下さい。仮申込受付後、申込書類をお送りいたしますので要領に従いお申込下さい。なお、申込に際し、受講料をご案内の口座に2週間以内にお振込みください。お振込みをもって正式な申し込みとさせていただきます。定員に達し次第、締め切らせていただきますのでご了承下さい。受講票、受講料などの連絡は、受講通知とともに後日ご案内させていただきます。

なお、申し込みが20名に満たない場合には中止させていただきますのでご了承ください。その時には受講料を払い戻しますが、本人都合による返金には応じられませんのであらかじめご了承下さい。

9. 申込書送付先および問い合わせ先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-18 小石川アーバン4F
一般社団法人 学会支援機構内
日本体力医学会スポーツ医学研修会 係
電話：03-5981-6015 FAX：03-5981-6012
E-mail：jspfsm@asas.or.jp

第22回 日本体力医学会スポーツ医学研修会 仮申込書

下記の通り、研修会の受講を申込ます。（該当する□にレ印をつけてください。）

- 第22回基礎コース
 第22回応用コース
 試 験

氏 名

連絡先 〒 -

TEL :

FAX :

第5回 NPO法人日本スポーツ栄養研究会 総会・学術集会

期 間	平成23年7月1日(金)～3日(日)	参 加 費	日本スポーツ栄養研究会正会員 7,500円／ 学生会員 3,500円／非会員 10,000円(学生5,500円)
会 場	いわて県民情報交流センター (アイーナ) 岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1	問合せ先	第5回大会事務局 青森県立保健大学 〒030-8505 青森県青森市大字浜館字間瀬58-1 TEL 017-765-2105
テ ー マ	運動する子どもの食の大切さを考える －発育・発達の視点から－	申込方法	事前参加申込は、研究会ホームページ http://www.jsna.org/ よりお申込み下さい。
内 容	会長講演「ジュニアアスリートの発掘育成事業に携わって」 教育講演「シリーズ 競技を知る (ホッケー)」 「子どもの食の大切さを考える -発育・発達の視点から-」 シンポジウム「ジュニアアスリートの発掘・育成事業の現状」 「成長期の子どもの発育と発達 -身体・脳・心を評価する-」	申込期間	3月15日～5月27日 (それ以降は当日受付)
		単位認定	財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士 登録更新…全日程参加にて 単位認定 (予定)

第13回日本体力医学会北海道地方会のご案内

日 時	平成23年4月17日(日) 10:00～16:00 (予定) 受付は9:30からの予定です。	教育講演 I 「スポーツバイオメカニクスの現場応用」
場 所	北海道大学医学部臨床大講堂 札幌市北区北14条西5丁目	講 師：山本 敬三 先生 (北翔大学 生涯スポーツ学部)
参加費	1,000円	教育講演 II 「生活習慣病予防のためのトレーニング ～エネルギー代謝, 内分泌応答を手がかりにしたトレーニング科学～」
内 容	一般演題発表, 教育講演	講 師：後藤 一成 先生 (立命館大学 スポーツ健康科学部)

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団「第23回助成研究発表会」および 「ソルト・サイエンス・シンポジウム2011」の開催について

○第23回助成研究発表会

- ・開催期日 平成23年7月19日(火)
- ・開催場所 都市センターホテル(東京都千代田区平河町)
- ・参加料は無料. 参加希望者は財団にファックス・メール等で事前に申込.

○ソルト・サイエンス シンポジウム2011

- ・開催期日 平成23年9月9日(金)
- ・開催場所 早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール
(東京都新宿区西早稲田)
- ・テーマ 塩と生活
- ・参加料は無料. 参加希望者は財団にファックス・メール等で事前に申込.

詳細については、財団のウェブサイトをご覧ください.

公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団

(<http://www.saltscience.or.jp>)

Fax: 03-3497-5712 Tel: 03-3497-5711

E-mail: saltscience@saltscience.or.jp

ソルト・サイエンス・シンポジウム2011

1. 開催概要

- 1) 開催趣旨 塩に関する学術, その他の情報普及と啓発
- 2) 開催日時 平成23年9月9日(金) 13:00~16:40
- 3) 開催場所 東京都新宿区西早稲田 早稲田大学国際会議場 井深大記念ホール

- 4) 参加料 無料
参加の申込みはファックスまたはメール等で事前に申込

Fax: 03-3497-5712 Tel: 03-3497-5711

E-mail: saltscience@saltscience.or.jp

2. テーマと講演内容

- 1) テーマ 塩と生活

2) 講演内容

- (1) 海藻の不思議 (13:10~14:10)
講演者: 木村 修一 昭和女子大学大学院特任教授
座長: 蔵田 憲次 東京大学名誉教授
- (2) 生体内でクロールイオンはどんな働きをしているか? (14:10~15:10)
講演者: 岡田 泰伸 自然科学研究機構生理学研究所長
座長: 今井 正 自治医科大学名誉教授
- (3) しょう油の科学と歴史 (15:30~16:30)
講演者: 田上 秀男 (財)日本醤油技術センター理事
座長: 木村 修一 昭和女子大学大学院特任教授

第32回バイオメカニズム学術講演会 (SOBIM2011 in Osaka)

－ 開催案内 －

主 催：バイオメカニズム学会
 会 期：2011年11月26日(土) 27日(日)
 会 場：大阪科学技術センター
 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4

講演発表募集

- 講演申込締切 2011年7月29日(金)
- 予稿原稿投稿締切 2011年10月7日(金)

●会場までの交通機関

大阪市営地下鉄本町駅(四つ橋線・中央線・御堂筋線)下車
 参照URL <http://www.ostec.or.jp/data/access.html>

●第32回バイオメカニズム学術講演会事務局

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-2
 大阪大学大学院人間科学研究科
 実行委員長 熊倉 博雄 (Tel: 06-6879-8056)
 学術講演会HP
<http://morph.hus.osaka-u.ac.jp/sobim2011/index.html>
 連絡用E-mail sobim2011@hus.osaka-u.ac.jp

企画募集

- オーガナイズドセッション
- 特別企画

OSや特別企画の実施を希望されている方は、企画案を事務局にお知らせください。

提案締切 2011年4月8日(金)

●協賛団体 (予定)

計測自動制御学会, システム制御情報学会, 情報処理学会, 人工知能学会, 人体科学会, 精密工学会, 電気学会, 電子情報通信学会, 日本運動生理学会, 日本FES研究会, 日本看護科学学会, 日本看護技術学会, 日本看護研究学会, 日本機械学会, 日本義肢装具学会, 日本義肢装具士協会, 日本建築学会, 日本作業療法士協会, 日本シミュレーション学会, 日本写真測量学会, 日本人工臓器学会, 日本人類学会, 日本生活支援工学会, 日本整形外科学会, 日本生体医工学会, 日本生理学会, 日本体育学会, 日本体力医学会, 日本人間工学会, 日本バイオマテリアル学会, 日本バイオメカニクス学会, 日本福祉のまちづくり学会, 日本補綴歯科学会, 日本理学療法士協会, 日本リハビリテーション医学会, 日本リハビリテーション看護学会, 日本リハビリテーション工学協会, 日本臨床スポーツ医学会, 日本臨床神経生理学会, 日本臨床バイオメカニクス学会, 日本ロボット学会, 日本ロボット工業会, ヒューマンインタフェース学会, ライフサポート学会, 臨床看護研究学会, 臨床歩行分析研究会, IEEE EMBS Japan Chapter, IEEE EMBS West Japan Chapter

編 集 後 記

大震災が起こりました。小生が当日某財団からの助成金贈呈式に出席するため高田の馬場のホテルにチェックインしたときです。この財団の助成金は年間10億円を越す日本でもっとも大きなものですが、複数の体力医学会会員が選ばれました。ですから選定された喜びをともにできると楽しみにしていた矢先でした。東京で育ち、何度も地震に遭遇しました。しかしこれほどの揺れは経験したことはなく、背筋がぞっとしました。その夜は身動きできなくなった体力医学会会員2名とともに余震の続く狭いホテルで眠れぬ不安な一夜を過ごしました。そして翌朝、それぞれ苦労して家に戻りました。

その後の報道で実情を知り、愕然としました。言葉もありませんでした。被災地の体力医学会会員の皆様に心からお見舞い申し上げます。海外からもお見舞いメールが来ますが、先日ECSSのPresident, Dr Hoppelerから次のようなメールをいただきました。

"We were shocked to hear about the terrible tragedy that happened in your country and would like to express our deepest sympathy. On behalf of the ECSS, I hope to extend moral support to you, your families and colleagues."

これからの復興に、われわれだからこそできる支援ができないものでしょうか？ さっそく国立健康栄養研究所の日本体力医学会会員が中心になって「避難生活での寝たきり・座りきり・エコノミー症候群等を予防するための運動・身体活動」および「災害時の栄養・食生活に関して」の情報を発信しています。

この雑誌が届くころには被災地に復興の息吹が聞こえてくることを念願しております。

田中 宏暁

Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine Vol. 60, No. 2

体 力 科 学 第60巻 第2号

平成23年3月25日 印刷

平成23年4月1日 発行

編集兼発行者

鈴木政登

発行所

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4階

一般社団法人 学会支援機構

日本体力医学会

編集事務局

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社内

「体力科学」編集事務局

TEL・FAX(共通) 0235-22-3120

E-mail: hj-tairyoku@turuin.co.jp

印刷所

〒997-0854 山形県鶴岡市大淀川字洞合1-1

鶴岡印刷株式会社